

2 前計画における総合目標の達成度評価

- 平成 16 年度からの前計画では、最上位の総合目標として3つの目標を掲げ、健康づくりの取り組みを推進しました。改善が進んだ指標がある一方で、達成できなかった指標も残るという状況になりました。

健康で自立して生活できる期間を延ばすこと（健康寿命（注）の延伸）

⇒ 健康で自立して生活できる期間を延ばすこと（健康寿命の延伸）に関しては、高齢者の健康感や要介護以外の高齢者の割合は低下しています。

総合目標	指標	基準値 (策定時)	実績値
健康で自立できる期間を延ばすこと (健康寿命の延伸)	要介護以外の高齢者の割合 上げる	90.3%	87.4%
	自分の健康状態を良いと感じる 70歳以上高齢者の割合 （「健康である」「まあ健康である」の合計） 上げる	64.4%	60.0%

自分が健康であると感じられる市民が増えること（主観的健康感の向上）

⇒ 健康への関心は高まっている一方で、自分が健康だと感じている市民は減少し、生活習慣が良くないと考える 20 歳～40 歳代の市民が多く、健康管理に課題がある人が増えています。

総合目標	指標	基準値 (策定時)	実績値
自分が健康であると感じられる市民が増えること（主観的健康感の向上）	自分の健康状態を良いと感じる市民の割合 （「健康である」「まあ健康である」の合計） 上げる	69.4%	65.9%

健康な家族の形成を支援すること

⇒ 子供のことを健康だと感じ、子育てしやすいまちと感じている市民は増えています。父親の育児参加が増えて、ゆとりを持って子供と接する人が増えている反面、子育て世代の 20～40 歳代で、睡眠が取れずストレスも高い生活になっています。このことから、今後も、個人への支援とあわせて健全な家族の育成への支援をすることが大切です。

総合目標	指標	基準値 (策定時)	実績値
健康な家族の形成を支援すること	出生率（注） 維持・向上	8.7	8.5
	自分の子供の健康状態を良いと感じる市民の割合 （「健康である」「まあ健康である」の合計） 現状水準維持（90%以上）	97.0%	97.8%
	西東京市を子育てのしやすいまちだと思ふ人の割合 （「そう思う」「まあそう思う」の合計） 上げる	24.1%	44.0%